

コミュニティバスの一部ルート変更について(審議事項)

■1 ルート変更の概要

令和7年7月に予定されている国立駅南口子育て支援施設整備に合わせて、当該施設前に国立市コミュニティバスの新バス停を設けるためのルート変更を予定しています。

現在のくにつこのルートおよび子育て支援施設の位置は図1の通りですが、子育て支援施設アクセスに加えて、JR 国立駅 nonowa 口改札のアクセスにも便利な位置になります。



図1 現在のくにつこのルートおよび子育て支援施設の位置

図2、図3の通り、ルート変更及び新設バス停の設置を予定しています。国立駅北口発の便は、⑬中一丁目バス停の次に、⑬-2(新設バス停)→降車場→⑭国立駅南口と走行します。



図2 国立駅北口発の運行ルート図(変更後。点線は現行ルート)

国立市役所発の便は、⑳国立公民館バス停の次に、㉑-2(新設バス停)→降車場→㉒国立駅南口→㉓国立公民館→㉔音大附属小学校東バス停と走行します。

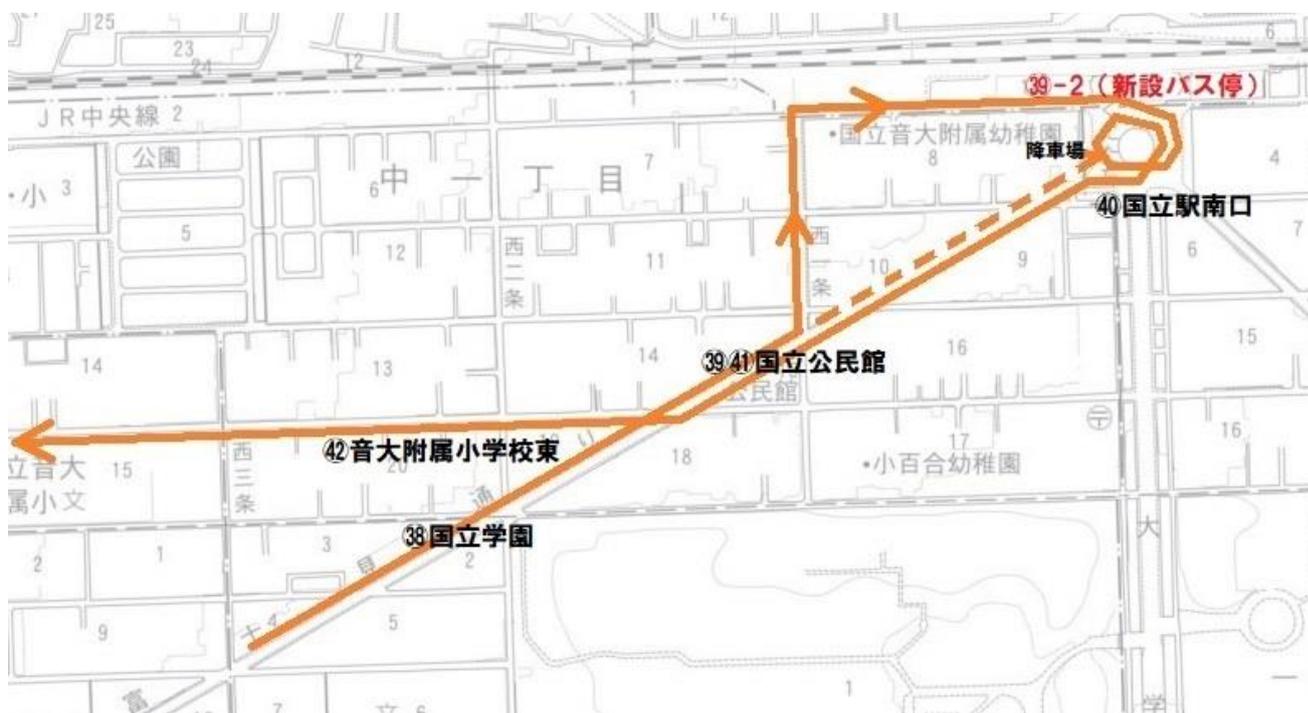


図3 国立市役所発の運行ルート図(変更後。点線は現行ルート)

■2 パブリックコメントの結果について

ルートの変更および新設バス停の設置にあたっては、コミュニティバスの事業計画の変更となり新設バス停に対する運賃設定をする必要がある(運賃改定はありません)ことから、本日14時から運賃協議会(出席者は道路運送法第9条第4項に規定(市、東京運輸支局、運行事業者(立川バス)、市民委員)を開催する必要があります。

また、運賃協議会に先立ち、令和6年12月5日から25日にパブリックコメントを実施しました。運賃に関する意見は無し、ルート変更についての意見が2件寄せられました(参考資料1-2参照)。

■3 ルート変更および新設バス停設置のメリット・デメリット

(1)メリット

- ・子育て支援施設へのアクセス向上
- ・国立駅 nonowa 口へのアクセス向上
- ・歩行者の信号無視が多くみられる西1号線の横断歩道を渡る必要がなくなり安全性が向上
- ・現在の降車場から国立駅 nonowa 口改札機まで徒歩2分～2分半程度かかるが、新設バス停から国立駅 nonowa 口改札機までは約30～40秒程度。雨の日も傘がほぼ不要。

(2)デメリット

- ・富士見通りから直接降車場にアクセスする現状ルートよりもバスの走行距離が若干延びる(運行ダイヤ上は、手前のバス停からの所要時間1分となっており、現状よりも著しく不便になることはないものと考えられる)。

■4 新設停留所名称について

- ・施設の正式名称は「国立駅南口子育て支援施設」であるがこれをそのまま停留所名にすると、既存の「国立駅南口」バス停名称とまぎらわしい。
- ・施設に愛称などがつくようであれば、それをバス停名称にするとわかりやすい(広報等の都合から年度末を目途に愛称等を検討中とのこと)。
- ・バス利用者としては、駅アクセスが圧倒的に多いと考えられるため停留所名は「国立駅 nonowa 口」などし、サブ的に子育て支援施設関連の車内アナウンスを追加する方法も考えられる。
- ・ルート変更を含めたコミュニティバス事業計画変更の申請は4月末までに行う必要があるため、地域公共交通会議での議論・意見等をベースに事務局預けとさせていただけると助かります。

■5 その他

- ・運行管理者(立川バス(株))、交通管理者(警視庁本庁、立川警察署)合同の現場実査については、令和6年11月12日に実施済みで、ルート変更およびバス停の新設について特段の問題はないとのご意見をいただいております。
- ・ルート変更とバス停の新設は令和7年7月1日始発を予定しています。

以上